

| 開設の目的・概要等 | | | | |
|--|----|------|--|------|
| <p>近年、本邦は未曾有の超高齢社会に突入しているため、加齢がリスクであるパーキンソン病の発症率が増加すると予測されている。現在活用できる治療は対症療法に限定されるため、創薬に繋がるパーキンソン病の病態解明は喫緊の課題である。1961年にL-ドパの有効性が示されて以来、ドパミン作動薬、抗コリン剤、MAO-B阻害剤、COMT阻害剤、ゾニサミド、アデノシンA2a受容体拮抗剤など多くの薬剤が開発されてきた。L-ドパ以外は、レスポンド率は60%前後であり、このように高率なレスポンド率を示さない理由の1つが疾患の多様性である。この疾患不均一性を解明すべく本研究では、下記について、前向き・後向きの研究開発を行う。</p> <p>①可能な限り前向きに2,000例以上を、一定期間フォローして、後ろ向きだけでは取得できない臨床症状などの情報を加えたデータベースの構築する</p> <p>②将来的に、パーキンソン病患者における血液バイオマーカー・画像マーカーを見出し、治療反応性の有無を解析することで、疾患予測モデルの作成とプレジジョンメディスンを確立する。</p> | | | | |
| 区分 | 番号 | 学位論文 | 全著者名,論文名,掲載誌名, 掲載年 ; 巻 (号) : ページ番号 | 国際共同 |
| 英文原著 | 1 | * | Miyamoto K, Saiki S*, Matsumoto H, Suzuki A, Yamashita Y, Iseki T, Ueno SI, Shiina K, Kataura T, Kamagata K, Imamichi Y, Sasazawa Y, Fujimaki M, Akamatsu W, Hattori N*. Systemic metabolic alteration dependent on the thyroid-liver axis in early PD. Ann Neurol (in press) PMID: 36128871, DOI: 10.1002/ana.26510 | |
| 英文原著 | 2 | | Kataura T, Sedlackova L, Otten EG, Kumari R, Shapira D, Scialo F, Stefanatos R, Ishikawa KI, Kelly G, Seranova E, Sun C, Maetzel D, Kenneth N, Trushin S, Zhang T, Trushina E, Bascom CC, Tasseff R, Isfort RJ, Oblong JE, Miwa S, Lazarou M, Jaenisch R, Imoto M, Saiki S, Chronakis MP, Manjithaya R, Maddocks ODK, Sanz A, Sarkar S, Korolchuk VI. Autophagy is required for the maintenance of NAD. Dev Cell 57:2584, 2022 | ○ |